

2019年12月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(非連結)



2019年11月7日

上場会社名 サイバーコム株式会社 上場取引所 東
 コード番号 3852 URL https://www.cy-com.co.jp
 代表者(役職名) 代表取締役社長 (氏名) 渡辺 剛喜
 問合せ先責任者(役職名) 取締役執行役員 管理本部長 (氏名) 兀下 恵子 (TEL) (045) 681-6001(代表)
 四半期報告書提出予定日 2019年11月11日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2019年12月期第3四半期の業績(2019年1月1日~2019年9月30日)

(1) 経営成績(累計) (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2019年12月期第3四半期	10,462	18.3	717	56.4	721	55.2	491	55.6
2018年12月期第3四半期	8,847	—	458	—	464	—	315	—
	1株当たり 四半期純利益		潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益					
	円 銭		円 銭					
2019年12月期第3四半期	61.25		—					
2018年12月期第3四半期	39.36		—					

当社は、2017年12月期より決算日を3月31日から12月31日に変更いたしました。これに伴い、2018年12月期第3四半期(2018年1月1日から2018年9月30日)と、比較対象となる2017年12月期第3四半期(2017年4月1日から2017年12月31日)の期間が異なるため、対前年同四半期増減率については記載しておりません。

(2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2019年12月期第3四半期	8,414	5,003	59.5
2018年12月期	8,454	4,632	54.8

(参考) 自己資本 2019年12月期第3四半期 5,003百万円 2018年12月期 4,632百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2018年12月期	—	0.00	—	15.00	15.00
2019年12月期	—	0.00	—	—	—
2019年12月期(予想)	—	—	—	17.00	17.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2019年12月期の業績予想(2019年1月1日~2019年12月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	13,000	7.7	650	6.8	650	5.5	433	3.5	53.98

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）

2019年12月期3Q	8,021,600株	2018年12月期	8,021,600株
-------------	------------	-----------	------------

② 期末自己株式数

2019年12月期3Q	766株	2018年12月期	744株
-------------	------	-----------	------

③ 期中平均株式数（四半期累計）

2019年12月期3Q	8,020,842株	2018年12月期3Q	8,020,856株
-------------	------------	-------------	------------

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、当社としてその実現を約束する趣旨のものではありません。実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、【添付資料】2ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期貸借対照表	4
(2) 四半期損益計算書	5
(3) 四半期財務諸表に関する注記事項	6
(継続企業の前提に関する注記)	6
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	6
(追加情報)	6
3. その他	6

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期累計期間におけるわが国の経済は、企業収益の改善や、堅調な雇用情勢、所得環境を背景に緩やかな回復基調が継続しているものの、米中貿易摩擦の激化や英国のEU離脱問題の混迷などにより、依然として先行き不透明な状況が続いております。

当業界においては、企業収益の回復と人員不足を背景とした合理化・省力化へのニーズによる設備投資は堅調に推移しております。

また、情報システムやネットワークのセキュリティ対策及び信頼性の確保に対する取り組み、車載、交通分野並びにエネルギー分野等の社会インフラや医療分野における需要拡大に加え、AI、IoT (Internet of Things)、自動運転、第5世代移動通信(5G)による新しいビジネスの進展、RPA (Robotic Process Automation) を活用した業務効率化等といったニーズの高まりから市場環境は引き続き良好な状態が続いております。

その一方でIT技術者不足が常態化していることによる人材の確保、育成がより大きな課題となっております。

このような状況下、当社は顧客満足度向上を最優先としつつ、既存顧客を中心としたリピートオーダーの確保や新たなニーズの掘り起こしに加え、需要拡大が見込まれる成長分野に対する積極的な営業展開、新規顧客の獲得により更なる事業展開を進めております。

また、動員力強化施策として、インターンシップ及び内定者懇談会の開催や、人材紹介会社との定期交流会の実施などによる新卒及び中途採用活動を積極的に展開すると共に、パートナー様とのリレーションシップ強化施策を継続してまいりました。

さらに、技術力、管理力向上にむけた階層別研修による人材育成に取り組むと共に、ワークライフバランスの最適化(有給休暇取得推進、残業時間低減など)や、在宅勤務導入などの働き方改革に取り組んでまいりました。

以上の結果、当第3四半期累計期間における経営成績は、売上高104億62百万円(前年同期比18.3%増)となりました。利益面においては、増収により営業利益7億17百万円(前年同期比56.4%増)、経常利益7億21百万円(前年同期比55.2%増)、四半期純利益4億91百万円(前年同期比55.6%増)となりました。

当第3四半期累計期間におけるセグメント別の業績は以下のとおりであります。

[ソフトウェア開発事業]

当社の主力事業でありますソフトウェア開発事業は売上高84億73百万円(前年同期比17.3%増)、営業利益13億22百万円(前年同期比39.2%増)となりました。

通信ソフトウェア開発はネットワークシステムにおける通信機能の開発の増加により堅調に推移いたしました。

制御ソフトウェア開発においては、ECU (Electronic Control Unit) やADAS (先進運転支援システム) 関連等の車載システム開発案件、半導体製造装置システム開発等の機械制御案件により堅調に推移いたしました。

また、業務ソフトウェア開発につきましても、生保向けシステムの大型案件継続に加え、企業向け業務システム、公共向けシステム、流通関連システム、医療関連システム等の開発案件が好調に推移いたしました。

[サービス事業]

サービス事業は売上高19億47百万円(前年同期比23.7%増)、営業利益2億59百万円(前年同期比20.6%増)となりました。

SIサービス(構築・保守・運用・評価検証サービス)においては、社会インフラ及び金融系を中心とした仮想化、クラウドへの移行案件、サイバーセキュリティ対策案件やネットワーク構築案件が好調に推移しており、第5世代移動通信(5G)の基地局検証案件については堅調に推移いたしました。

自社プロダクトである「Cyber Smart」シリーズ製品(Cyber IP-PBX、Cyber CTI、Cyber Phone)につきましては、IP-PBX案件、クラウドサービスや年間保守の増加により好調に推移いたしました。

また、新たにクラウドVPNサービス(※1)「楽々セキュアコネクト」を2019年8月より販売開始いたしました。

(※1) VPN: 通信事業者の公衆回線を経由して構築された仮想的な組織内ネットワークまたはそのようなネットワークを構築できる通信サービスのこと。企業内ネットワークの拠点間接続などに使われ、あたかも自社ネットワーク内部の通信のように遠隔地の拠点との通信を行うことができます。

(2) 財政状態に関する説明

(資産)

当第3四半期会計期間末における資産は、前事業年度末に比べて39百万円減少(0.5%減)し84億14百万円となりました。その内訳は、流動資産が82百万円増加(1.7%増)し50億65百万円となり、固定資産が1億22百万円減少(3.5%減)し33億48百万円となったことによるものであります。

流動資産増加の主な要因は、受取手形及び売掛金の増加5億34百万円、短期貸付金の減少3億52百万円、現金及び預金の減少1億31百万円によるものであります。

固定資産減少の主な要因は、繰延税金資産の減少93百万円によるものであります。

(負債)

当第3四半期会計期間末における負債は、前事業年度末に比べて4億10百万円減少(10.7%減)し34億11百万円となりました。その内訳は、流動負債が5億48百万円減少(26.1%減)し15億53百万円となり、固定負債が1億38百万円増加(8.0%増)し18億57百万円となったことによるものであります。

流動負債減少の主な要因は、未払法人税等の減少3億90百万円、賞与引当金の減少2億73百万円、買掛金の増加1億5百万円によるものであります。

固定負債増加の主な要因は、退職給付引当金の増加1億35百万円によるものであります。

(純資産)

当第3四半期会計期間末における純資産は、前事業年度末に比べて3億70百万円増加(8.0%増)し50億3百万円となりました。

なお、「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」(企業会計基準第28号 平成30年2月16日)等を第1四半期会計期間の期首から適用しており、財政状態については遡及処理後の前事業年度末の数値と比較しております。

(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

2019年12月期の業績予想につきましては、2019年2月8日発表の業績予想のとおり変更ありません。

今後、何らかの変化がある場合には適切に開示してまいります。

2. 四半期財務諸表及び主な注記

(1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (2018年12月31日)	当第3四半期会計期間 (2019年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,017,154	885,593
受取手形及び売掛金	2,764,819	3,299,449
商品	713	3,704
仕掛品	59,138	61,849
短期貸付金	1,049,115	696,957
その他	92,330	118,234
流動資産合計	4,983,272	5,065,789
固定資産		
有形固定資産		
建物	1,200,072	1,226,958
減価償却累計額	△141,405	△175,951
建物(純額)	1,058,667	1,051,007
土地	1,406,905	1,406,905
その他	107,009	121,514
減価償却累計額	△42,559	△53,318
その他(純額)	64,449	68,196
有形固定資産合計	2,530,022	2,526,109
無形固定資産	89,809	65,870
投資その他の資産	851,045	756,837
固定資産合計	3,470,877	3,348,817
資産合計	8,454,149	8,414,606
負債の部		
流動負債		
買掛金	414,584	520,259
未払費用	286,976	256,413
未払法人税等	405,421	15,366
賞与引当金	597,153	323,314
役員賞与引当金	27,850	22,725
その他	370,454	415,764
流動負債合計	2,102,441	1,553,842
固定負債		
退職給付引当金	1,691,743	1,826,863
役員退職慰労引当金	27,380	30,356
固定負債合計	1,719,124	1,857,220
負債合計	3,821,565	3,411,062
純資産の部		
株主資本		
資本金	399,562	399,562
資本剰余金	307,562	307,562
利益剰余金	3,925,690	4,296,698
自己株式	△232	△279
株主資本合計	4,632,583	5,003,544
純資産合計	4,632,583	5,003,544
負債純資産合計	8,454,149	8,414,606

(2) 四半期損益計算書

第3四半期累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期累計期間 (自2018年1月1日 至2018年9月30日)	当第3四半期累計期間 (自2019年1月1日 至2019年9月30日)
売上高	8,847,359	10,462,412
売上原価	7,240,766	8,394,103
売上総利益	1,606,593	2,068,309
販売費及び一般管理費	1,147,891	1,350,730
営業利益	458,702	717,578
営業外収益		
受取利息	1,247	1,662
助成金収入	1,693	—
受取事務手数料	1,093	1,111
その他	2,125	1,151
営業外収益合計	6,159	3,925
営業外費用		
固定資産除却損	19	27
営業外費用合計	19	27
経常利益	464,842	721,476
税引前四半期純利益	464,842	721,476
法人税、住民税及び事業税	218,611	136,157
法人税等調整額	△69,491	93,997
法人税等合計	149,119	230,155
四半期純利益	315,722	491,320

(3) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(追加情報)

「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」(企業会計基準第28号 平成30年2月16日)等を第1四半期会計期間の期首から適用しており、繰延税金資産は投資その他の資産に表示しております。

この結果、前事業年度の貸借対照表において、「流動資産」の「その他」に含まれていた繰延税金資産260,681千円は、「投資その他の資産」に含めて表示しております。

(表示方法の変更)

(損益計算書関係)

従来、「特別損失」の区分において表示しておりました「固定資産除却損」は、臨時多額ではなく毎期発生しているため、当第3四半期累計期間より「営業外費用」に計上する方法に変更しております。

この表示方法の変更を反映させるため、前第3四半期累計期間の四半期財務諸表の組替を行っております。

この結果、前第3四半期累計期間の経常利益が19千円減少しております。

なお、第2四半期累計期間及び前第2四半期累計期間において、「固定資産除却損」の発生がないため、第2四半期累計期間の四半期財務諸表への影響はありません。

3. その他

該当事項はありません。